

③ 四年 接続語が文と文との意味のつながりに 果たす役割を理解し、使う	
名前	年 組 番

次の【文章の一部】は、六年生の高島さんが五年生るときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

【文章の一部】の中の——部を、主語に注目して二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、「だから」を使います。

- (1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから、」に続く七文字を書きましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

新しく委員になった五年生は、へんしゅう（中略）へんしゅう（中略）

（中略）

。だから、

（中略）

教えてあげたいと思った。

- (2) ——部を二つの内容に分けるとき、「だから」と同じような意味の別の言葉を使うとすると、どのような言葉がふさわしいですか。次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 しかし
- 2 また
- 3 ところで
- 4 それで

